

1 単元名 物語の世界を深める「きつねの窓」『読書座談会』をしよう

～リテラチャー・サークルを通して、物語の世界を広げたり深めたりしよう。～

2 単元の見込み

- 「きつねの窓」を、様々な視点で読み取った内容について話し合い、読書の楽しさに気づき、自分の考えを広げたり深めたりしようとする。 (関心・意欲・態度)
- 「きつねの窓」を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 (読む(1)オ)
- 「きつねの窓」の構成を理解することができる。 (言イ(キ))

3 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・「きつねの窓」を、様々な視点で読み取った内容について話し合い、読書の楽しさに気づき、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。	・「きつねの窓」を読んで考えたことを発表し合い、友達の読みとの共通点、相違点に気づき、自分の考えを広げたり深めたりしている。(オ)	・「きつねの窓」の構成を理解している。 (言イ(キ))

4 単元について

(1) 単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元を貫く言語活動として、「自分の考えを持って読書座談会をしよう」を位置づけた。学習指導要領「C読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。本単元では、「きつねの窓」を読んで考えたことを基に読書座談会を行い、「C読むこと」のねらいに迫りたい。児童一人一人が自分の考えをしっかりと持って座談会に参加するための手立てとして、リテラチャー・サークルの「役割」を活用する。(※リテラチャー・サークルとは、「アメリカ・シカゴの公立学校の元教師で読書教育の研究者であるダニエルズらが開発した、ディスカッショングループを用いた読書指導の方法である。同じ本を選んだ子ども同士がグループを組み、それぞれの役割に沿った方法で読んだ後、話し合いをする。そこで、それぞれの読みの視点から本の内容や登場人物などについて話し合うことによって、一人で読み味わう以上に、本の世界に親近感と深まりを持つことができるようになる。」という手法である。)

児童一人一人に「役割」があることで、主体的に物語の世界と向き合うことができる。主体的に読

むことで、自分なりに深い心情や場面の様子についての考えを持ちながら読むことができるだろう。全員が自分の考えを持った上で座談会を行う。本を読んで考えたことを友達と語り合い、読書の楽しさに気付かせていきたい。

安房直子作「きつねの窓」は、青と白を基調とした美しい世界が現れているファンタジー作品である。登場人物の関係性に基づいた行動や会話、効果的な情景描写などの表現の中に、登場人物の深い心情が表れている。叙述を基にして、児童が想像を膨らませながら読むことができる作品である。語りも「ぼく」という一人称で語られている。児童が登場人物と自分を重ね、興味を持って読み進めることができるだろう。

また、ファンタジー作品の特徴である、不思議な世界への入り口・出口を意識しながら読むことで、物語のしかけのおもしろさにも気付かせたい。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元では、学習指導要領「C 読むこと」の指導事項(1)オ「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」をねらいとする。

「自分の考えを広げたり深めたりする」ためには、まず一人一人が作品に対する自分の考えを持つことが大切である。児童が主体的に物語の世界と向き合い、自分なりの考えを持つための手立てとして、リテラチャー・サークルの「役割」を以下のように活用していきたい。

- 「はてな係」は登場人物の行動や心情、情景描写等について疑問を持ちながら読み、疑問に対する自分の考えを持つ。
- 「つながり係」は場面のつながりや自分と登場人物を結び付けて読んだり、今まで読んだ本と比べてたりしながら読む。
- 「表現係」比喩表現や色彩表現、省略表現などの表現の工夫等から、それらが物語の中でどんな意味を持つか考えながら読む。
- 「人物係」は人物の行動や様子や会話から、登場人物の気持ちがどのように変化したのか、なぜ変化したのかについて考えながら読む。

上記の役割に沿って作品を読み、自分なりに考えたことを基にグループで読書座談会をする。同じ本や文章を読んでも、読む人によって感じ方や受け取り方が違ってくる。それぞれ考えたことが、どのように共通していたり相違していたりしているかなどを明らかにしながら話し合い、自分だけでは気付かなかった作品の魅力に気付いたり、自分の考えを再度見つめ直したりさせたい。この活動を通して、読書の楽しさを味わい、生涯にわたって読書に親しむ態度を養いたい。

(3) (1)(2)の基盤となる言語環境や継続的な取り組み

まず、本に親しむための取り組みとして、教室に「学級図書コーナー」を設け児童がいつでも本を手に取りやすい環境作りをしてきた。図書館指導員と協力をして、「学級図書コーナー」には、「きつねの窓」の作者である安房直子の作品を置いたり、以前教科書に出てきた宮沢賢治やあまんきみこなど、他のファンタジー作家の作品を置いたりして、いろいろなファンタジー作品に親しませてきた。

また、児童が友だちにおすすめしたい本を持ち寄り、自分で作った本の帯をつけて教室の本棚に置いた。児童の言葉で本の魅力を紹介させることで「友だちが好きな本なら読んでみたい」「自分の読ん

だことのない本を紹介してもらえて嬉しい」など、意欲的に読書に取り組むことができた。

11月に入り、全校で秋の読書イベントに取り組んだ。その中で、「ブックウォーク宣言」という取り組みを行った。児童一人一人が読書の目標（読む本の内容、読む量など）を設定し、その達成を目指すことで、主体的に読書に取り組み、さらに読書意欲を高めることができた。

次に、本を読んで自分の考えを持つための取組として、朝の時間に読み聞かせを行ってきた。読んでいる途中で、「このあと登場人物はどんな行動をとると思う？」や「雪がどっさり降ったってどのくらい？」など、児童に尋ねながら読むことで、自分なりの考えを持って読むことを常に意識づけてきた。

国語以外の各教科の中でも、課題や問題に対する自分の考えをノートに書くことを意識づけている。そして、その考えを基に2人組やグループでの話し合う活動を多く取り入れてきた。話し合いの際には、友だちの意見との共通点や相違点を明らかにし、根拠を示して話すこと、友だちの意見は最後まで聞くことなど、基本的なルールを確認しながら行ってきた。

5 指導計画（10時間）

次	時	学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
第一 次	1	○単元「物語の世界を深める」のねらいをつかみ、単元全体の見通しを持つ。 ・「きつねの窓」をそれぞれの役割で読み、自分の考えを持って、読書座談会をすることを知る。 ・リテラチャー・サークルの役割を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> はてな係 つながり係 表現係 人物係 </div> ○「きつねの窓」を読んで、感想を短冊に書く。 ・一番心に残った場面や表現 ・不思議に思ったこと など (例) ・題名の「きつねの窓」には、どういう意味があるのか疑問に思った。 ・きつねと「ぼく」が共通の思いでつながったところが心に残った。 ・青と白の色の意味を考えたい。 など	○指導上の留意点 ◆評価 ○「川とノリオ」で学習したリテラチャー・サークルの手法を活用し、一人一人が自分の考えを持って読書座談会をすることを伝える。 ○本文の拡大コピーに短冊を貼らせ、掲示する。(一人読みが進まない児童が参考にするため) ◆初発の感想を書いている。(短冊)
	2 3	○あらすじをつかむ。 ・「きつねの窓」の不思議な世界への入口・出口をとらえる。(現実 - 不思議な世界 - 現実の構成)	

自分の考えを持って、読書座談会をしよう。

		<p>(例)</p> <p>㊦ ・山小屋に向かってぼんやり歩いている。</p> <p>㊦ ・青いききょうの花畑に迷い込む。</p> <p>・白いきつねとの出会い。巣を見つけるため追いかけるが、見失う。</p> <p>・「染め物屋 ききょう屋」できつねが指を青く染めようとするが、断る。</p> <p>・きつねが「窓」を作る。中には亡くなった母ぎつねが映る。</p> <p>・きつねに指を染めてもらう。</p> <p>・指で窓を作る。中には、昔大好きだった少女が映る。</p> <p>・お礼にきつねに鉄砲をあげ、店を後にする。</p> <p>・見慣れた杉林の中で、再び窓を作る。</p> <p>・窓に、今はないぼくの家が映る。</p> <p>・林の中を歩き、小屋に帰る。</p> <p>㊦ ・小屋に帰り、手を洗う。青い色がおち、窓を失う。</p> <p>・きつねに会いに杉林へ向かうが、二度と会うことはない。</p> <p>・その後のぼく。</p>	<p>自分の考えを持って、読書座談会をしよう。</p>
第二次	5 6	<p>○役割に沿って自分で読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文に線を引ながら読む。 ・自分の考えをノートにメモする。(ノートの上半分に本文を印刷した紙を貼り、下半分に考えをメモする。) 	<p>○一人読みの時間を2時間とり、自分の考えをしっかりと持たせる。</p> <p>○役割ごとに線の色を分け、自分がどの役割で読んだのか一目見てわかるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>はてな係 (青) つながり係 (赤)</p> <p>表現係 (緑) 人物係 (黄)</p> </div> <p>○余裕がある児童には、自分の役割以外のことで気付いたことをノートに書き込んで良いことを伝える。</p> <p>◆自分の役割で、物語の世界を想像しながら読んでいる。(ノート)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・勇気を出して人と関わることの大切さがわかった。 など ・読書座談会を行った感想や役割で読んだ感想を発表する。 <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと物語について語り合うことで、自分だけでは気付かなかったことに気付くことができた。 ・比喩などの表現の工夫に隠された登場人物の気持ちに注目しながら読むと、より深い心情を知ることができて、楽しかった。 <p>など</p>	<p>自分の考えを持って、読書座談会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○色々な読み取りがあつて良いことを伝える。 ◆読書座談会を通して、読書の楽しさや、色々な視点を持って読むことの楽しさに気付いている。(ノート)
--	--	--

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・それぞれの役割で読み取ったことをもとに、自分の考えを進んで友達と交流しようとする。
(関・意・態)
- ・それぞれの役割で読み取ったことを自分の考えと比較しながら聞き、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(読)

(2) 本時の学習活動

本時の学習は、それぞれが役割に沿って作品を読み進め、そこから自分なりに考えたり感じたりしたことを、根拠を明らかにしながらグループで話し合う。

リテラチャー・サークルの手法を活用し、一人一人が役割を持って作品に向き合うことで、主体的に読み進めていくことができると考える。一人一人の考えをグループで持ち寄り、話し合う際には、自分と友達の考えの共通点や相違点を考えながら話し合いを進める。同じ作品を読んでも、受け取り方に違いがあることに気づき、自分の考えを改めて見つめ直しながら、作品の魅力に迫り、それぞれの読みを広げたり深めたりさせていきたい。

また、毎時間ごとに学習内容の振り返りとして自己評価をする。話し合いによる考えの広がりや深まりに自分自身で気付くことで、学習の楽しさや喜びを感じることができるだろう。

(3) 本時の展開 (9 / 10)

主な学習内容と活動	指導や支援の手立て (◆評価)
<p>1 学習のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の話し合いで考えが広がったり深まったりしたところを確認する。 ・本時の話し合いで深める疑問を確認する。 	<p>○これまでの話し合いの内容を振り返り、本時のめあてをつかませるようにする。</p>

「きつねの窓」で読書座談会をしよう。

2 グループで意見や感想を話し合う。

<予想される話し合い(例)>

- ・「ぼく」がきつねの窓を失って得たものは何だろう。(失っていなかったらどうだったか。)
- ・一番最後の「きみは変なくせがあるんだなと、よく人に笑われます。」という文は何を表しているか。
- ・青と白に隠された意味は何か。 など

3 学級全体で話し合う。

○グループの話し合いで深まった、また、意見が分かれた内容について出し合う。

4 今日の学習を振り返って感想を書く。

○読書座談会をして自分の考えが広がったり深まったりしたかノートに書く。

○納得した意見をノートにメモさせる。

○本文の記述や自分の経験など、根拠を明らかにしながら話し合うよう促し、再度本文に照らして全員で根拠を確かめるように助言する。

○友だちの考えを聞いて、自分の考えに照らして同意したり質問したりするよう助言する。(必要に応じて反論することも読みを深める上では大切なことを知らせる。)

○結論が出なかったり意見が分かれたりしても良いことを伝える。

◆物語を読んで考えたことや感じたことを進んで話し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。

○各グループで深まった内容について発表させる。

○話し合いを通して、誰の意見や考えから自分の考えを見直したり深めたりしたか、具体的に書くように助言する。

◆1つの作品について互いの考えの共通点や相違点を整理しながら話し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。(ノート)